

これって大丈夫？① ～「好きにしないで！」～

例：時間になってもこどもが帰ろうとしない。そんな時、こんな風に言ってしまうことありませんか？

㊦「もう好きにしないで！」

㊩「置いて帰るよ！」

こんな風に変えてみて！



私が怒っていると分かればきつと言うことをきくはず。

㊦は、「遊んではいけない。」と表情で伝えながら、「好きにしないで。」(＝遊びなさい。)と言葉で伝えています。㊩は、帰るふりをしつつも、実際は待っています。こどもに伝わるメッセージが矛盾しています。

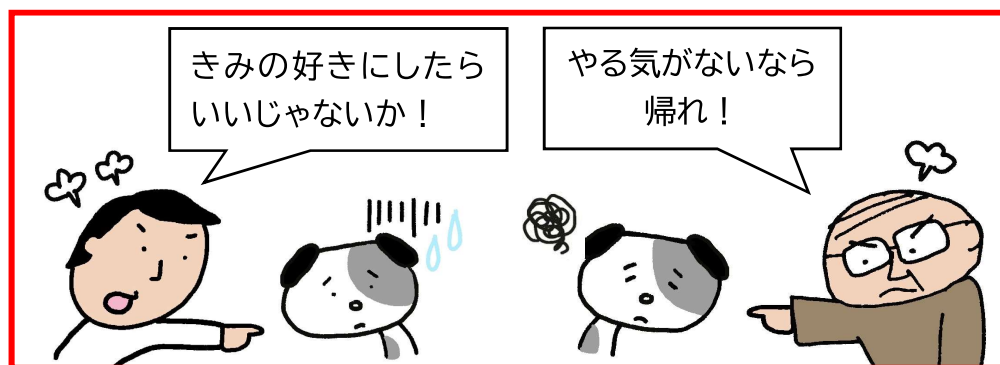
「楽しかったね。」
「あと〇回やったら帰ろうね。」
「帰っておやつにしよう。」
「さあ行こう！よーいドン！」



帰りたくない気持ちは分かるよ。
気持ちを切り替えるって、難しいね。

こどもを突き放すような伝え方は、言葉よりも大人の険しい表情を見て、慌てて帰ろうとするので、はじめのうちは即効性があるように見えます。でもそのうち慣れて「まだ遊んでいても大丈夫かな。」「本当に置いて帰ることはないもんね。」などと学習してしまうと、効き目はなくなります。表情や声色で大人が「怒っている」と知らせて、こどもに言うことを聞かせようとすると、大人は自分自身の行動(怒りのアクション)につられて、怒りの感情がエスカレートしがちです。

【矛盾したメッセージ】 こんな風に言われたらどう感じるでしょう。



自分が言われると思うとすごくイヤだな…。
こどもに対して感情的に言わないように気をつけよう！

好きにしても帰っても、怒られる場面です。でも、正しい指示は与えられていません。つらいですね…。大人でも、どうすればよいのかを、分かりやすく伝えてもらった方が気持ち良いものです。こどもならば、なおさらです。

分かりやすく伝えても、こどもは、気持ちの切り替えがうまくできないときがあります。そんな時は「楽しかったね。」「また来たいね。」と静かに繰り返し伝えながら、連れて帰るようにしましょう。

自分の思いは主張できても、行動の責任は取れないのが、こどもです。気持ちを切り替えたり、気分を立て直したりすることにも、何度も練習が必要だということを、ぜひご理解くださいね。

